大船渡市立綾里小学校

2015年 1月 7日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「H24 岩手県教育研究発表会 資料 防災教育への取り組みと震災時の対応」(2012年2月)綾里小学校前校長 鈴木晴紀
http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/happyoukai/h23/houkoku01/t1_01.pdf

【場所】

海から約600mの位置にあり、道路を挟んで隣に川が流れている。
住所:岩手県大船渡市三陸町綾里平舘21

赤い範囲:大船渡市　赤い範囲:大船渡市綾里　緑の範囲:綾里小学校

【東日本大震災による被害】

津波により校舎が浸水し一部損壊した。

【震災当日の様子】

長く激しい揺れの地震で、今までに体験したことがないものであったため、校長は津波が来ると判断し、地震の揺れが収まってからすぐに児童を校庭に避難させた。全員の避難を確認し、コミュニティセンターへ2次避難を開始した。消防団が駆けつけ、児童の避難と安全を確保してくれた。本来の避難場所は綾里駅であったが、地震の3ヶ月前にコミュニティセンターが完成し、ここを第2の避難場所としていた。そのうちに津波が防潮堤を越えたという情報が入り、更に高台にある綾里駅に向かった。明治三陸津波の教訓から、校長の指示で、綾里駅に着いてからもさらに線路をまたぎ、崖をよじ登り、山手の高台へ避難した。一緒に避難していた保護者の一部から児童の引き渡しの要望があったが、繰り返される余震で児童がかなり動揺していること、地域の被災状況や道路状況が把握できていないこと、高台に避難した今、津波に襲われる心配がないことから引き渡しは行わなかった。

その後、直線距離で約800m先にあるB&G財団の体育館に避難した。津波で壊滅状態の繁華街を移動することは非常に危険ではあったが、消防団から津波が収まってきている情報を得たので、今居る避難場所からさらに高いところに家がある児童だけを保護者に引き渡し、あとの児童を連れて、消防団の誘導でB&G財団の体育館を目指した。消防団や保護者から情報を収集し、地域の被災状況を把握した。迎えに来た保護者には、住居の安全と道路状況、地区の被災状況を確認した上で児童を引き渡した。迎えに来てもらえなかった児童、或いは被災状況がわからない児童は避難場所になっている綾里中学校の体育館に避難させた。

学校は津波浸水予測域に指定されており、また明治三陸津波で綾里地区に40m近い高さの津波が到達した歴史を踏まえて、普段から避難訓練に力を入れていた。(1)

【調査して言えること】

学校の標高は約7m、海からの距離が約600mの位置にあり、また学校の道路を挟んで西隣に川が流れているため、地震の際に津波を警戒する必要のある学校である。2次避難を行ったコミュニティセンターは学校から北東に300mほど離れた場所にあり、標高は16mほどで、津波の避難場所としては少し低い場所である。また、綾里駅は学校から北東に600mほど離れた場所にあり、標高は31mほどである。綾里駅よりさらに北に進むとより高い場所に逃げることができる。

学校からやや離れた場所ではあるが高台があり、学校外への避難が可能な学校である。

南から見た学校(2014/3/17撮影)

学校と児童が避難した高台のある山(2014/3/17撮影)